

9月 25～28週

ヒーローズ

Hero's おかやま

2015年8-9月号

1	火	25週
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	適性模試(小5、6)
6	日	休校
7	月	
8	火	26週
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	夏期講習小6受験生補習
13	日	休校
14	月	
15	火	27週
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	夏期講習中3受験生補習
20	日	休校
21	月	休校(9月28日振替)
22	火	休校(9月29日振替)
23	水	休校(9月30日振替)
24	木	28週
25	金	
26	土	月曜日振替(16時～22時)
27	日	休校
28	月	振替(月曜通常授業)
29	火	振替(火曜通常授業)
30	水	振替(水曜通常授業)

ヒーローズ塾生のみなさん、保護様方、こんにちは。

夏休みもまもなく終わります。とくに受験生諸君は、この夏にモノにしないと
いけないことを各自「ノート」にまとめていると思います。これからも、その
ノートにどんどんと解けなかった問題や覚えていないことを書き込んでいきま
しょう。さて、いよいよ夏終盤の模試です。模試は出題範囲を指定し、科目に
よっては出題される問題まで提示してくれる定期テストとは違って本当の実力
が試されるもの。ここでの結果が受験にもっとも影響すると言っていいでしょ
う。今回はその模試の有効利用について述べてみます。

今は偏差値にこだわる。模試は8月29、30、9月5日。

(受験申込済みの生徒さんには、今回、受験票を同封しています。)

まず、模擬試験を受ける目的をしっかりと理解すること。

(1) 偏差値にて、自分の現在の学力(自分の位置)を知ることができる。

たとえば、学校の定期試験は300点を超えているが、模擬試験では偏差値50だ
った。という場合、偏差値50ということは、その模試での平均ぐらいとい
うことになるので、上位校を受験する場合はは得点力が不足しているとい
うこと。

(2) 偏差値にて、過去の自分の学力と比較ができる。

たとえば、数学の模擬試験での点数が1回目65点(偏差値50)、2回目58点
(偏差値54)という場合、点数は下がっていますが、偏差値が上がっている
ので、問題が難しくなっていることがわかり、他の生徒さんよりも学力的には上
がっているということがわかります。

(3) これまでの学習の中での未消化(まだ理解ができていない)の部分がわ

かる。これは、模擬試験の答案を見れば、どこができて、どこができてい
ないかすぐにわかります。模擬試験の結果は、得点や偏差値を見て、一喜一憂し
てそれだけで終わらせないこと。よく見ると教科ごとに問題ごとの正答率と自
分の正解、不正解がわかるようになっていきます。特に正答率が高くて、でき
ていない部分は比較的簡単な問題だと考えられるので、そこから復習をしてい
くことです。自分ができなかったところをできるようにすることがポイントです。

夏期講習補習9月12,19日。参加申し込みが必要です。

夏期講習後半ですが、当然に理解度や習熟度は指導のやり方、また生徒さんの
向き合い方により大きな差が出るのも事実です。その差を埋めるべく補習を実

施する予定です。中3は19日。小6は12日です。参加用紙などは時間帯も含めて個別に別途お知らせします。補習です
ので無料ですが精度向上のため参加者の方は事前に配布する課題を解いたうえでの参加を条件とさせていただきます。

9月シルバーウィーク休校により9月26日(土)は月曜授業の振替とします。

月4回の授業回数消化が9月は月曜のみ曜日配列の関係でできません。よって、振替を26日とします。(16時から22
時)対象者の生徒さんには別紙用紙にてお申し出ください。Mailでも可です。

未来予報図、2030年には今の仕事の50%は無くなる！

お盆の休みを利用して、あるセミナーを受講しました。
思えば、つい5年前、今のスマートフォンが想像できたのでしょうか？今回のセミナーも会議形式でしたが、一昔前の会
議はOHPという、シートにカラーマジックで直接書き込み、投影機で照射してスクリーンに映していました。今では考

えられないです。技術革新によって 2030 年までに現在存在している仕事の 50%が消えてしまうということです。その調整に政治があるわけですが、次世代はますます、単純作業を必要としなくなり、知識を前提したうえで、その知識を使う力や人間力などが問われるでしょう。生徒さんたちは目の前のことしか見れません。ある程度の先を見据えて、我々が引き出しを増やしてあげることが必要です。いわば、親は「語る」必要があります。今回のセミナーでは個別に業界ごとに消える職業の紹介がありました。もちろん全てではありませんが、方向性は間違っていないと思います。

1. 電力業界

現在の発電は、高価な上に非効率で一方向へのエネルギー供給しか行えません。しかし 2030 年では、既存の大規模発電所からの送電電力にほとんど依存せずに、エネルギー供給源と消費施設をもつ小規模なエネルギー・ネットワーク「マイクログリッド」が普及することで大規模な火力発電所などは消えてしまうだろうといえます。「マイクログリッド」でのエネルギー供給源は分散型電源であり、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、コジェネレーションなどを組み合わせたものです。それにより発電所の閉鎖も含めて多くの鉄道や交通機関で労働者が必要でなくなる・大規模な風力発電所、天然ガス、バイオ燃料の発電所は閉鎖(マイクログリッドは小規模エネルギー・ネットワークのため)・電力会社の維持管理者(エンジニア)・エネルギー網のメンテナンス(修理工)などは消えるそうです。

2. 自動車産業

運転は、時間、エネルギー、お金の無駄。また、自家用車の稼働率は現に 10%しかありません。それなのに毎年 500 万人が交通事故で死傷しています。しかし、自動運転車によってこれら全てが解決します。未来では、自動運転車によって輸送技術は格段に進歩し、自動車の台数自体が減少します。さらに運転というものの再定義が迫られでしょう。

トラック、タクシー、リムジン、バスなどの自動車ドライバー・ガソリンスタンド、駐車場、交通警察、交通裁判所、交通事故によるケガ人に対処していた医師、看護婦、ピザを代表とした宅配員、郵便局の郵便物配達員、宅配業者の宅配員(ヤマト、佐川などの宅配員)・自動車製造業者などは消えるそうです。

3. 教育

これからはインターネット上にある教材で学習し、自力で勉強できるようになります。このシステムが普及すれば、これまでのような画一的な学校の授業は不要となります。体系化された学習システムを教師ではなくコンピュータから学び、専門的で複雑な問題だけを専門の教師から学ぶようになるでしょう。また、わざわざ高い授業料を払って学校に行かなくても同じ内容を低価格で学ぶことができ、自分には必要のないくだらない授業を聞かなくてもよくなります。教師、トレーナー・教授は消えるそうです。

4. 製造業

立体的なものを製造できる 3D プリンター技術の進歩によって、これまでのようなネジでとめたり、溶接したり、塗装したりという仕事は不要となります。また、大企業にしか作れなかったものも、中小企業でも製造可能となりあらゆるものが 3D プリンターで製作されるようになるでしょう。それは、自動車や機械などは言うに及ばず、衣服などを扱う軽工業から建築などの建設業、あるいは食品産業といったあらゆる産業で応用が可能です。また、この 3D プリンター技術によって「店で商品を選らんで買う」という概念も消えさり、未来ではネットでボタンを押せば、工場で自動的にあなたのサイズにピッタリの製品が必要な数だけ作られて配送されます。そのため、ほとんどの製造業者と小売業者の仕事はなくなります。製品の設計やデザインなどの需要が拡大します。衣類メーカー、衣料品小売業者、靴メーカー、靴の小売業者、建築資材、木材、石、石膏、砂利、コンクリート、その他の建設産業、製造業者、小売業者も消えるそうです。

5. ロボット

人間の労働を代替してくれる究極の機械装置ロボット。日進月歩の開発により、より複雑でより多機能なロボットが多く生み出されています。それらは最終的に、人間の仕事の全てを行ってくれるようになるでしょう。高性能ロボットの開発によって、ほぼ全ての物理的な仕事をロボットが行うようになり、人間の仕事は精神的、知的なものに集中します。

・漁師、農業、検査、兵士ロボットによって漁師・農家・検査、兵士は無くなり、3D プリンターから出てくる建築資材をロボットが組み立てて家を建築するようになると大工も消えます。(引用、今から 30 年後消える仕事。コトホシムベ-)